

中東情勢に関する関係閣僚会議（第4回）議事要旨

（開催要領）

1. 開催日時：令和8年4月16日（木）18:15~18:30
2. 場 所：首相官邸4階大会議室
3. 出席者：
 - ・高市 早苗 内閣総理大臣
 - ・茂木 敏充 外務大臣
 - ・鈴木 憲和 農林水産大臣
 - ・赤澤 亮正 経済産業大臣（兼）中東情勢に伴う重要物資安定確保担当大臣
 - ・金子 恭之 国土交通大臣
 - ・石原 宏高 環境大臣
 - ・林 芳正 総務大臣
 - ・松本 洋平 文部科学大臣
 - ・上野 賢一郎 厚生労働大臣
 - ・松本 尚 国務大臣
 - ・牧野 たかお 復興大臣
 - ・あかま 二郎 国家公安委員会委員長
 - ・黄川田 仁志 国務大臣
 - ・城内 実 国務大臣
 - ・小野田 紀美 経済安全保障担当大臣
 - ・三谷 英弘 法務副大臣
 - ・岩田 和親 内閣府副大臣
 - ・宮崎 政久 防衛副大臣
 - ・高橋 はるみ 財務大臣政務官
 - ・尾崎 正直 内閣官房副長官（衆）
 - ・佐藤 啓 内閣官房副長官（参）
 - ・露木 康浩 内閣官房副長官（事務）
 - ・阪田 渉 内閣官房副長官補（内政）
 - ・河邊 賢裕 内閣官房副長官補（外政）

・市川 恵一 国家安全保障局長

(議事次第)

1. 開会
2. 議事 中東情勢をめぐる状況等について
3. 閉会

(配布資料)

- 資料1 外務省提出資料
- 資料2 経済産業省提出資料
- 資料3 厚生労働省提出資料
- 資料4 供給の偏り・流通の目詰まり解消案件

(議事内容)

○尾崎副長官

ただ今より、「中東情勢に関する関係閣僚会議」を開催致します。

官房長官が本日まで不在でございますので、本日私が代理を務めさせていただきます。

それでは議事に入ります。出席者の皆様から、順に各省庁の取組状況について、ご発言をお願いいたします。まず、茂木外務大臣より、御発言をお願いします。

○茂木外務大臣

先週、実に47年ぶりとなる米・イラン間の直接協議が行われました。合意には至らなかったものの、現在、再協議に向けた動きもあり、今後の動向を引き続き注視していく必要があります。

今、最も重要なことは、停戦が維持され、ホルムズ海峡の航行の安全確保を含む、事態の沈静化が実際に図られることでもあります。米イラン間の協議が再開され、最終的な合意に至るよう、我が国としても仲介国を含む関係国と緊密に連携し、こうした動きをしっかりと後押ししていきたいと思っております。

こうした観点から、先週以来、高市総理にイラン、パキスタン及びオマーンとの電話会談を実施いただき、私自身も、インド、バーレーンの外相、そして、昨日には、事態発生以降4度目となる、イランのアラグチ外相との電話会談を行いました。私から、日本関係船舶の一日も早いホルムズ海峡通過を改めて強く働きかけました。先方からは、米国・イラン間の協議の様子や見通しも含め、イラン側の考えについて詳しい説明があったところです。

さらに、ホルムズ海峡の航行が阻害されている影響を最も受けているのはアジアの国々です。こうした中、昨日のAZEC+オンライン首脳会合では、高市総理から、総額約100億ドルの金融面での協力等を行う「パワー・アジア」の立ち上げを発表していただきました。首脳会合では、各国からも非常に好意的な反応がありました。

今後とも、日々変化する情勢を踏まえつつ、国際社会と連携し、多角的な外交努力を主体的に行っていく

たいと思います。

○尾崎副長官

次に、赤澤経済産業大臣（兼）中東情勢に伴う重要物資安定確保担当大臣より、ご発言をお願いいたします。

○赤澤経済産業大臣（兼）中東情勢に伴う重要物資安定確保担当大臣

燃料油・石油製品は、「日本全体として必要となる量」を確保できており、今後も全力で確保してまいります。一方で、一部に供給の偏りや流通の目詰まりが生じており、サプライチェーン全体を把握し、ひとつひとつ、確実に解消してまいります。

重要施設向けの燃料確保のために、元売事業者から直接販売を行うスキームを開始しました。実際に、し尿処理施設で使用する A 重油、あるいは九州地方も今、シーズンであります茶の製造に必要であります A 重油といった供給不安を解消しました。

塗料用シンナーについては、経済産業省からの働きかけの結果、サプライチェーン間で原料の供給見通しが共有されることで、出荷が昨年実績ベースまで回復する目処が立っております。

同様に、住宅設備メーカー TOTO の新規受注停止案件についても、TOTO から発表があったとおり、新規受注再開の方向となっているとともに、TOTO のサプライチェーンの目詰まり箇所を特定し、原料の供給に目処がたったところでもあります。あわせて、TOTO 以外の住宅設備や建材の卸事業者に対し、一時的な需給逼迫が生じないように、通常量を超える発注や在庫の確保等を控えることも要請しております。

前回総理からご指示のあった経済安保推進法も、重要物資の追加指定については、経産省としては、製造基盤強化の観点から、化学品などを含め自律性強化のための支援策について検討をしてきたところです。引き続き、追加指定に関する検討を進めてまいります。

昨日、総理が AZEC プラス首脳会合において新たなパートナーシップである「アジア・エネルギー・資源供給力強靱化パートナーシップ」、通称「パワー・アジア」を提唱され、各国から大歓迎の意が示されました。これは AZEC に経済・エネルギー強靱化の視点を加え、「AZEC 2.0」として進化させていくもの。医療用物資を含め様々な石油製品由来の重要物資をアジアから輸入している我が国としては、各国と共に強靱なエネルギー・重要鉱物サプライチェーンを構築することは、国内の安定供給につながるものであり、このパートナーシップを通じて、関係省庁と連携しつつ全力で取り組んでまいります。

国民の皆様の命と暮らし、そして経済活動に影響が生じないように、万全の対応を講じてまいります。

○尾崎副長官

次に、上野厚生労働大臣をお願いいたします。

○上野厚生労働大臣

医療物資につきましては、赤澤大臣と連携して引き続き情報収集と目詰まりの解消を進めており、新たに献血バッグ等 5 件の供給不安を解消し、午前の対策本部で報告を行いました。

その他、医療用手袋について、歯科診療所など、一部の医療機関において確保が困難になっているとの相談が寄せられています。

国では、パンデミックの発生に備え、手袋等の個人防護具を備蓄しており、手袋については国の備蓄水準を超える量として、約4億9000万枚保有しています。

このため、手袋の確保が困難な医療機関向けに、このうち5000万枚を放出することとし、今後の流通状況によっては、必要に応じ追加の放出も行います。配送可能な体制を5月中に整備していきます。これと並行して、海外からの追加調達などの検討も進めてまいります。

また、厚生労働省では、経済産業省と連携をして、アジア諸国で生産される医療機器・医療物資等のサプライチェーンのボトルネックの把握も進めています。

ボトルネックの解消には現地国の協力が不可欠であり、「アジア・エネルギー・資源供給力強靱化パートナーシップ」の枠組みも活用し、原油やナフサなどの石油製品の安定供給を通じたアジア全体のサプライチェーン強靱化に向けて、経済産業省と連携して対応してまいります。

さらに、安定的な供給確保対策として、今回の中東情勢の教訓も踏まえつつ、医薬品・医療機器のサプライチェーン調査を早急に進め、特定重要物資の追加指定についても小野田大臣と連携し、検討を進めてまいります。

関係省庁と連携し、あらゆる手段を講じることで、医療物資の安定供給を実現してまいります。

○尾崎副長官

次に、小野田経済安全保障担当大臣お願いいたします。

○小野田経済安全保障担当大臣

先般の総理のご発言を受けまして、中東情勢への緊急対応のために赤澤大臣の下で行われる、重要物資のサプライチェーンについて把握された状況が共有されるよう連携を密にし、集約してまいりたいと思います。

また、これを踏まえて、緊急対応にとどまらず継続的な対応が必要な物資など、中東情勢を踏まえて先を見越した対応が必要となる物資については、各省における精査の結果を踏まえ、関係省庁と連携しながら、特定重要物資への指定を検討してまいりたいと思います。

○尾崎副長官

それでは、最後に、高市総理大臣から御発言をいただきます。その前にプレスが入室します。

それでは、高市総理、よろしくお願い致します。

○高市総理大臣

先週に引き続きの開催で、皆さまお疲れ様でございます。

国民の皆様のお命と暮らし、経済活動に影響が出ないように、これまで以上の緊張感とスピード感を持って対応に当たってまいります。

昨日、A Z E C+オンライン首脳会合を開催し、私から「アジア・エネルギー・資源供給力強靱化パート

ナーシップ」、通称「POWER Asia (パワー・アジア)」を発表しました。医療用物資を含め、様々な石油製品由来の重要物資をアジアから輸入している我が国にとって、国内の安定供給、さらに、日本経済の強化に繋がってまいります。

国内対策として、ガソリン、軽油、重油、灯油などの補助を継続しておりますので、今週のガソリン価格も、全国平均で170円に抑制できております。「日本全体として必要となる量」は確保できており、一部で生じている「流通の目詰まり」についても、解消が進んでいるとの報告を本日いただきました。

まず、塗装業を営む方が不安を感じておられるシンナーについては、赤澤大臣と金子大臣が、目詰まり箇所を特定し、官民で原材料の供給情報を共有することで、サプライチェーン各層の原料調達の予見可能性を高める働きかけを行った結果、シンナーメーカーからの出荷量が回復し、解消に向かいつつあります。また、住宅設備メーカーのユニットバスについて、原材料不足を理由に受注を控える動きがありましたが、シンナー同様の目詰まり原因を特定し、赤澤大臣から、サプライチェーン各層への同様の働きかけを行った結果、新規受注再開が発表されております。

国民の皆様への命に直結する医療分野においても、消毒液、人工透析用の注射針や献血バッグなどお配りしている案件一覧の通り、「流通の目詰まり」の解消が着実に進みつつあります。医療において、万が一の事態は絶対に許されません。上野大臣は赤澤大臣と連携して、医療分野での「目詰まりゼロ」に全力で取り組んでください。

町の医院や歯科クリニックからは、「医療用手袋」について供給不安の声をいただいていた。このため、国がパンデミックの発生に備えて備蓄している「医療用手袋」を、手袋の確保に支障をきたしている医療機関向けに、5月に5000万枚放出します。国は、放出可能な「医療用手袋」を5億枚近く備蓄しております。「医療機関等情報支援システム」を通じ、必要量の要請を受け付け、タイムリーに放出してまいりますのでどうか皆様ご安心ください。

「元売からの燃料の直接販売」の働きかけについては、今週も、農業を含む様々な分野で、供給を実現することができました。例えば、これから田植えが本格化しますが、軽油やガソリンの調達の懸念があった地域唯一のガソリンスタンドに直接供給が決まりました。また、一番茶のシーズンを迎える緑茶につきましても、お困りの声が届いていた事業者への重油の供給が決まりました。

このように、医療関係以外でもお手元の資料のとおり、国民の皆様への命や暮らしを支える分野でのお困りごとを一件一件、着実に解消してきました。国民の皆様からは、農業用資材やせっけんなど、幅広い物資について、御懸念の声を伺っています。赤澤大臣は関係大臣と連携をして、これまで以上に、先手先手で、サプライチェーンの把握と目詰まり解消に努め、重要物資の安定供給をやり遂げてください。

人工透析の部品や血液の廃液容器など一部医療部材は、アジア諸国からの輸入に依存しております。アジアのサプライチェーンの停滞は、日本への医療物資の調達に直結します。上野大臣は赤澤大臣と連携して、「POWER Asia (パワー・アジア)」の枠組みも活用し、我が国の医療物資の安定確保に総力を挙げて取り組んでください。

経済安保推進法に基づく「特定重要物資」、この指定は、今回の中東情勢のようなサプライチェーンリスクにも対応できる効果的な方策です。赤澤大臣や上野大臣からは、物資指定を前向きに検討している旨、報告がありましたが、国民の命と暮らしに直結する物資を担当する全ての所管大臣は、小野田大臣と連携をし

て、サプライチェーンリスクを点検した上で物資指定の検討を進めてください。以上です。

○尾崎副長官

以上をもちまして本日の会議は閉会といたします。ありがとうございました。